

卒業生で外科医を志す皆様へ

自治医科大学消化器・一般外科とさいたま医療センター一般・消化器外科では、外科医を志望しながら様々な事情で外科医になりにくい卒業生を一人でも多くサポートし、外科専門医を取得した上で地域医療の現場で外科医としても将来活躍してもらいたいと考えております。

新専門医制度では、修練期間 3 年で約 500 症例の手術経験を求められています。自治医科大学の卒業生は、都道府県の事情により状況はだいぶ異なりますが、義務年限をはたす関係上、3 年での取得は難しい状況です。自治医科大学卒業生は規定にあるプログラムの休止（未終了）の措置を最大限に活用し修練期間 3 年にこだわらずに時間をかけて取得を目指すことが現実的と考えます。日本専門医機構では制度の詳細に関して現在も継続審議されていますが、現行規定でどのような支援ができるかをまとめましたので参照ください。

1. 外科医となるキャリアパスがある都道府県

都道府県の方針に従って手続きを進めます。先輩外科医から話を聞いて助言をもらうことも重要です。義務内派遣先に外科系の病院がある場合、その病院の所属する基幹施設を調べ、基幹施設のプログラムに入ることができるか、また規定で 3 年の修練期間中、最低半年は基幹施設での研修が必要ですので基幹施設での研修が可能か、都道府県に問い合わせる必要があります。基幹施設での研修を後期研修として認めてもらえると思えます。仮にプログラムへの参加ができない、基幹施設での研修ができないことがあれば、自治医科大学消化器・一般外科又はさいたま医療センター一般・消化器外科にご相談ください。

2. 外科医となるキャリアパスのない都道府県

自治医科大学消化器・一般外科又はさいたま医療センター一般・消化器外科にお問い合わせください。どのようなキャリアパスが可能か検討します。

3. その他

派遣先の病院と都道府県をまたいで連携を結ぶことも可能です。この場合、自治医科大学またはさいたま医療センターの外科専門医プログラムに入り、同時に県の人事に従って動くことになります。施設の研修責任者と両施設間で協議を行い症例数のやりとり、さらに都道府県との交渉など多少手続きが複雑になりますので、この場合も自治医科大学消化器・一般外科又はさいたま医療センター一般・消化器外科までご相談ください。（実際、長野県の松本市民病院と自治医科大学、富山県のかみいち総合病院とさいたま医療センターが連携を結んでおります。）

4. 外科専門研修プログラム

さいたま医療センター：https://www.jichi.ac.jp/center/sinryoka/g_ippan/kensyu.html

自治医科大学消化器・一般外科佐田尚宏 (sata@jichi.ac.jp)

さいたま医療センター一般・消化器外科力山敏樹 trikiyama@jichi.ac.jp

問い合わせ先(卒後指導委員会専門医制度検討 WG)

自治医科大学消化器・一般外科笹沼英紀栃木県 17 期 h-ssnm@jichi.ac.jp

さいたま医療センター一般・消化器外科清崎浩一富山県 8 期 hkiyo@omiya.jichi.ac.jp